

発達障害に対する 理学療法は必要です

アール医療専門職大学
中 徹



少子化の中でも 発達障害を有するお子さんは 数的に増加しています

特別支援学級の児童生徒数・学校数の推移 (各年度5月1日現在)



【令和2年度の状況】

	知的障害	肢体不自由	病弱・身体虚弱	弱視	難聴	言語障害	自閉症・情緒障害	計
学級数	29,162	3,150	2,518	537	1,294	707	29,287	66,655
在籍者数	138,232	4,685	4,312	643	1,965	1,495	151,141	302,473

(出典) 学校基本統計

発達障害を有するお子さんは 肢体不自由には区分されませんが 運動の発達や成長面で 少なからず課題を持っています

特別支援学級の児童生徒数・学校数の推移 (各年度5月1日現在)



特別支援学級在籍者数の推移



【令和2年度の状況】

	知的障害	肢体不自由	病弱・身体虚弱	弱視	難聴	言語障害	自閉症・情緒障害	計
学級数	29,162	3,150	2,518	537	1,294	707	29,287	66,655
在籍者数	138,232	4,685	4,312	643	1,965	1,495	151,141	302,473

(出典) 学校基本統計

発達障害を有するお子さんの
中心的課題は、情緒および知的発達
による合理的な生活行動を獲得する課題です

理学療法士が関わる
運動の発達や成長面の課題は
周辺的な課題と言えますが
基盤的課題でもあり
中心的課題に良い影響を
与える可能性があります

システマティックレビューによって
この主旨につながる結果が示されています

発達障害を有するお子さんは 運動の発達や成長面で課題を持つ

発達障害の診断区分

- 自閉症スペクトラム症（ASD）
- 注意欠如・多動症（ADHD）
- 発達性協調運動症（DCD）

システマティックレビューによって運動介入
に対して肯定的な結果が示されています

- 限局性学習症（SLD）

目下のところシステマティックレビュー
による検証がなされていません

発達障害を有するお子さんで 運動の発達や成長面の課題



- 感覚の過敏および統合の障害
- 筋緊張の合理的変容の障害
- 協調性・バランスの遂行の障害
- 口腔機能・構造の障害
- 肥満・痩身など身体構造の障害

- 粗大運動獲得の制限
- 巧緻運動獲得の制限
- 応用運動獲得の制限

- 参加生活における体験の制約

理学療法士には
発達障害を有するお子さんの
運動の発達や成長面の
課題達成のための支援の
提供が求められています

そのことを通じて・・・

発達障害を有するお子さんが
情緒および知的な発達が促され
生活の活動と参加が
楽しく幸せなものとなるよう
お手伝いをすることができます

具体的には…先に上げた課題に対応して 以下のとりくみを考えます



- 感覚の過敏および統合の障害
- 筋緊張合理的変容の障害
- 協調性・バランスの遂行の障害
- 口腔機能・構造の障害
- 肥満・痩身など身体構造の障害

発達理論に
依拠した
運動療法
生活での工夫
プログラム

- 粗大運動獲得の制限
- 巧緻運動獲得の制限
- 応用運動獲得の制限

発達理論と
学習理論に
依拠した
運動療法
生活での工夫
プログラム

- 参加生活における体験の制約

介入は、環境調整を基調として
楽しく繰り返しができる課題を選択する
課題を繰り返すプログラムは
生活の中で無理なく
留意できる点に焦点化します

介入の経過を運動機能やADLについて
GMFM・PEDI等の客観的評価指標で
伝える努力を行うと
家族との協働作業が発展します

この動画シリーズでは・・・



発達障害の基礎的理解
発達障害の理学療法の考え方
ライフステージでの取り組み
具体的実践例

・・・を紹介しています

発達障害への理学療法が
普通の日常的な理学療法として
進めることができる
一助となることを願います